

- **情報通信研究機構「プログラムディレクター」を任命**
- **平成18年4月17日**

独立行政法人情報通信研究機構(以下NICT。理事長:長尾 真)は、大学や民間企業等との研究連携を強化するため、様々な技術分野で優れた知見、見識を有する外部有識者をプログラムディレクターとして登用し、活動を開始しました。

平成18年4月1日にスタートした第二期中期計画において、特に研究連携強化を図る研究課題を“プログラム”と呼び、プログラムを指導するプログラムディレクターを任命したものです。

プログラム名	プログラムディレクター
新世代ネットワークアーキテクチャ	青山友紀 慶應義塾大学教授
フォトニックネットワーク	神谷武志 (独)大学評価・学位授与機構客員教授
ユビキタスマバイル	加藤修三 パシフィック・スター・コミュニケーションズKK社長
ユニバーサルコミュニケーション	松山隆司 京都大学教授
情報通信セキュリティ	篠田陽一 北陸先端科学技術大学院大学教授
電磁環境(EMC)	杉浦行 東北大学教授

こうした取り組みを通し、基礎から先導的分野までの研究開発を一貫した視点で総合的に行うNICTの特長を一層発揮し、国の政策とも密接に連携しつつ、産学との研究連携を強化していく予定です。

＜問い合わせ先＞
情報通信研究機構 総合企画部
広報室 栗原則幸
Tel: 042-327-6923、Fax: 042-327-7587

＜プログラムディレクターに関する問い合わせ先＞
情報通信研究機構 総合企画部
企画戦略室 若菜 弘充
Tel:042-327-7457

【プログラムディレクターの紹介】

青山友紀(あおやまともりのり)

慶應義塾大学教授。

昭和44年日本電信電話公社入社後、デジタルネットワーク、ISDN、光通信システム、超高精細画像(SDH)システムなどの研究実用化に従事。NTT光エレクトロニクス研究所長、光ネットワークシステム研究所長を歴任。平成9年より東京大学大学院教授。平成12年度志田林三郎賞、平成13年前島賞、平成15年度電子情報通信学会業績賞「4Kデジタルシネマの提唱と開発」受賞。電子情報通信学会フェロー。

神谷武志(かみやたけし)

大学評価・学位授与機構客員教授

光半導体エレクトロニクス、光通信技術の研究開発に従事。その間、民間機関と幅広いパイプを築き、数多くの産学連携プロジェクトを推進。平成18年現職。東京大学名誉教授。昭和60年櫻井健二郎記念賞(光産業技術振興協会)受賞。電子情報通信学会フェロー。

加藤修三(かとうしゅうぞう)

パシフィック・スター・コミュニケーションズKK社長

昭和52年日本電信電話公社電気通信研究所入社後、衛星通信を含む無線通信の研究開発に従事。平成4年退社後、国内外の民間製造メーカー等の要職を歴任。平成18年より東北大学電気通信研究所客員教授。電子情報通信学会フェロー。

松山隆司(まつやまたかし)

京都大学大学院情報学研究科教授

平成元年岡山大学工学部教授、平成7年京都大学大学院教授。平成14年学術情報メディアセンター長、京都大学評議員。画像理解、人工知能、分散協調視覚、3次元ビデオの研究分野における日本のパイオニアの一人。平成7年コンピュータービジョン国際会議Marr Prize、電子情報通信学会、情報処理学会、人工知能学会等で論文賞を受賞。

篠田陽一(しのだよういち)

北陸先端科学技術大学院大学教授。

平成13年より現職。情報環境、ネットワーク分散情報システム、ソフトウェア開発環境が専門分野。日本の学術コンピュータネットワーク構築に初期段階から関り、我が国におけるインターネットの礎を築いた立役者の一人。その後もIPおよびネットワークセキュリティの研究において先進的な研究成果を収めている。

杉浦行(すぎうらあきら)

東北大学電気通信研究所教授。

昭和43年電波研究所(情報通信研究機構の前身)入所以来EMC研究の土台を作る。平成11年東北大学電気通信研究所に移り、教育・研究の場でEMC研究に従事。国際無線障害特別委員会(CISPR)で数多くの国際規格策定に貢献。平成2年郵政大臣賞、平成9年前島賞受賞。電子情報通信学会フェロー。